

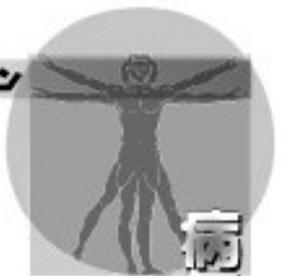
病気のリセットボタン

…美術の目で見た医学…

今、若い人に
形態異常が増えている！

花山水清
花山水清正院長

新連載！病気のリセットボタン



はなやま・すいせい 花山水清正院長
1955年生まれ。武藏野美術大学油絵科卒業。
テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実験を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の視点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。05年『腰痛は「ねじれ」を治せば消える』(廣済堂出版)を刊行。

花山水清プロフィール

形態異常は、ある日突然、からだの形の規則的な変化となって現れます。外見だけでは、左右非対称になると

いう現象もあれば、本人にしかわからない症状もあります。この現象による左右差は、右利き左利きだからとか、地球の自転とかとは関係なく現れるものようです。

また、老化によって起きる現象でもあります。その証拠に、現在の高齢者にはその程度が低く、逆に年齢が若い世代ほど顕著に見られます。しかも、ガン、膠原(こうげん)病、メニエル、アトピーなど、ある特定の病気の人には明

らかに、からだの形や体調に規則的にもいえる共通した変化が見られます。

私は美術大学で油絵を専攻していましたので、絵画における人体デッサンはイヤというほどやつてきましたし、治療家になる以前は、立体の制作を行っていました。そのため、医師が気付かないさまざまな人体の特徴を識別できるのです。

しかし、私が発見してきたこの現象は、今までに医学的に検証されたり、考慮されたことが一切ないので名前が存在しません。そこで、「この現象を形態異常と呼ぶことにしているのです。現在、この形態異常を引き起している原因は有機リン系殺虫剤や、ある特定の薬ではないかと考えて研究中ですが、見方のポイントさえわかれれば、あなたの周りの人にも、テレビや街のポスターで見かけるアイドルにも、明らかに形態異常が出ていたのがわかります。

形態異常の有無がわかるようになれば、自分や家族の健康状態を知ることができますし、病気の予防にもなりますので、今後シリーズでお伝えしていくと思っています。

形態異常

はからだの危険信号 No.1 左の起立筋だけが盛り上がる…

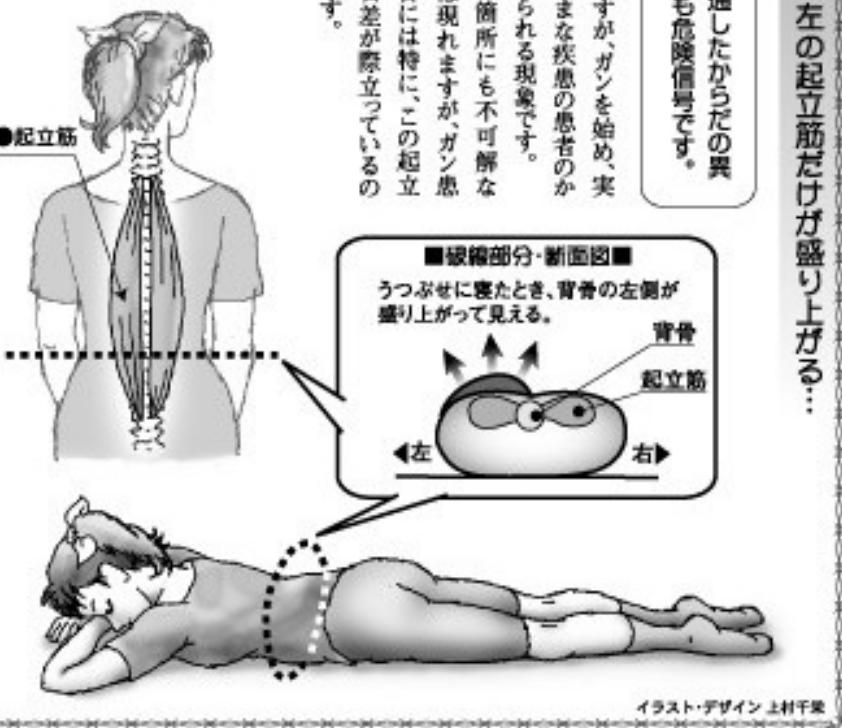
形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

起立筋は背中の両側にある筋肉。うつぶせに寝たとき、背骨の左側だけ筋肉が盛り上がり、右側が凹(へこんで)見える状態であつたら、要注意です。

左側だけが盛り上がり「左偏」といいます。左側だけが盛り上がり「左偏」といいます。

自分で「も気にならず病院に行くでも」「單なる凝(こり)りです」と言われるだけで、

病名がつくわけではありません。しかし、この筋肉の左右差は、筋肉の使いすぎや凝りとはまったく関係がないのです。また、「いつたんこの状態になると、自然に左右差が消える」とは滅多にありません。これ自体は痛くもかゆくもな



病気のリセットボタン

…美術の目で見た医学…

②

訓練された目で

「形」を見るということ

花山 水清

新連載！病気のリセットボタン



わたしたちは日ごろ、体重の増減に伴う体型の変化には敏感ですが、自分の体の「形」の変化については、あまり気にとめることはあります。まして、他人の体のことまでは、まったくわからないはずです。

これは、一般の人の場合、人の体を見たりさわったりして、その形を正確に把握・認識する訓練など、受けたことがないからで、訓練されていないという意味では、お医者さんも例外ではありません。

わたしの場合は、美術の世界にいましたので、人体デッサンで対象を

正確に見る訓練を受けています。また、考古学や民俗学の仕事では、遺物などの立体物を正確に平面図に起こす作業をやっていましたし、特殊美術の仕事では、手でさわることで対象を正確に立体に起こす作業もやっていました。

このような経験の積み重ねを通して、対象となる物の「形」ということに關しては、かなりさまざまな角度から、わたしの感覚は訓練されてきましたといえます。そのおかげで、今でも対象物の「形」のわずかな違いを見落とすことはありません。

ここまで正確さは特殊な例かもしれません。しかし、人間の感覚や能力というのは、訓練しさえすればかなり鍛えられるものです。これは、音楽においては、訓練によってドレミの音階を正確に聞き分けたり発声できたりするようになるのと同じこと

形態異常

はからだの危険信号／No.2 ワエストの左側がズンドウになつたように見える。

つまり、右はくびれているのに、ウエストの左側だけ、くびれがなくなっている現象です。

この状態のとき、ウエストの部分に両手を当てて、体の真ん中に向かって左右から押してみると、左側には抵抗感があるのが特徴です。

これは、体型を気にする女性のなかには、気付いている人もいますし、人によつては、体重は増えているのに、ウエストサイズが増えたようだと感じている人もいるようです。しかし、これがまさか病気の前兆

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。



だとは「存知ない

でしょ。

※この現象は、脊椎の湾曲とは関係がありますので、側湾症とは区別されなければいけません。

●右のウエストライン
→
くびれがない。

とです。

また、そろばんの上級者は、暗算するときに頭の中に浮かんだそろばんを使って計算できるそうですが、わたしの場合も、頭の中に人体の解剖図が再現できるようになってからは、手で触れた感覚（触覚）が、そのままビジュアル（視覚）に変換できるようになりました。

そして、このような技術を医学に応用することによって、「形態異常」のような、従来の医学では見落とされていたさまざまな現象を発見することができるようになつたのです。

1945年生まれ、武藏野美術大学油絵科卒業。
テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態學」の確立を目指して研究中。05年「腰痛は「ねじれ」を治せば消える」(廣済堂出版)を刊行。

はなやますいせい 花山形態矯正院長



病気のリセントボタン

…美術の目で見た医学…

原初における美術と医学

花山 水清

はなやますいせい

1926年生まれ、武蔵野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家の道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。05年、「腰痛は『ねじれ』を治せば消える」(廣済堂出版)を刊行。

現代において一般的には、美術と医学というのは全く違う世界のものだと考えられています。しかし、そもそも美術と医学とは人類史の上ではごく最近の分け方であって、最初においては両者の意味するところに大きな違いはありませんでした。それでは、原初の美術と医学とはどのようなものだったのでしょうか。今も昔も人間の本質には変わりはありませんから、両者が人間の根源的な欲求に根ざして発生したと考えるのが妥当でしょう。

元来、人は実用的なのにしか一

切興味を持たないものです。原初の時代から、持てる能力を最大限に發揮して自己の生命を永らえてきた人類にとって、実用的で根源的な欲求とはなにか。それは、自己保存であり、死への恐怖からの逃避です。

この自己保存の絶対条件とは、食べる事と子孫を残すことであり、そのための進化の結果、人類は現在のような体型を獲得しました。自己保存のための体型獲得は人類だけではなくあらゆる生物が共通して行ってきましたが、われわれ人類だけが「形」を発見したことによって文明を築き、

さまざまな文化を生み出しました。

そして、この「形」の発見を通して死への恐怖を回避しようとしたのが、原初における美術と医学の始まりだったのです。

ですから、原初における美術とは、現代のような非実用的な存在ではありませんでした。美術には、失われた生命を絵画や彫刻によって「形」として再現することで、人々を死の恐怖から解放するという実用的な役目がありました。現代とは違つて自然物しか存在しない時代において、人の姿を「形」として再現することは、

はからだの危険信号／左側の尻が垂れている

No.3

形態異常とはさまざまなものだ。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

これは年齢や性別には関係なく発症します。

「どうもパンツスタイルが決まらないな」と自分で気がついている人もまれにいますが、真後ろから人に見てもらわないとなかなかわかりませんので、お友だち同士でお互いにチェックしてみてください。

この症状の原因は神経伝達の異常ですので、一般的に言われているような骨盤などの骨格のズレとは全く関係ありません。また、姿勢や歩き方の問題でもありませんので、筋肉トレーニングをしても一切変化しないのが特徴です。

イラスト・デザイン 上村千栄



■左のヒップライン
が下がって見える。

生理不順などの婦人科系疾患と連動しているようです。婦人科系疾患の原因は、生まれつきの体質のせいだけではありませんので、まずはふだんの生活習慣を見直すようにしてください。

神が人を創ったことと同じ意味を持つていたのです。

また、ケガや病気によって「形」が変化した体を、元の正常な「形」へと再生させようとした」とから、原初の医学が生まれました。現代に比べればお粗末な医療ではあっても、不調に対して自然治癒しか望めない時代においては、積極的に人体の再生を試みるという行為自体が、神の御業(みわざ)に等しいものでした。このように「形」の発見を通して神の行為を再現することが、原初の美術と医学にとっての存在理由となり、人類としての命題を果たす手段となっていましたのです。

*編集部では本記事に関する電話の取次ぎ等は行いません。花山形態矯正には下記のホームページからアクセスして下さい。

花山水清ホームページ
<http://www.hnym.jp>



のレセプトボタン
...美術の目で見た医学...
シンメトリーと美と健康

...美術の目で見た医学...

花山水清

人体は、生命を維持し機能するためには細部にいたるまで完璧なメカニズムで構成されています。

ズムで構成され、究極の藝術作品と呼べるほど見事に形作られています。生命発生の段階から、成長し、老いて尽きるまで、人体の形は時とともに劇的な変化を見せますが、生命体としての美しさは常に保たれています。古代ギリシアでは、人々は変化変容する諸現象のなかで、不变の存在として理想の形を追い求めていました。その結果、不变な存在とは、宇宙の秩序であり法則であるとする考え方になりました。これは、現代科学に至りました。

すべての形にはそこに必ず意味があります。科学は、新たな形の発見とそこに潜む意味を探究することによって、進歩してきたと言えます。

理想の形に対する関心が根本的に違っています。古代ギリシアでは、理想の形の基準は美にありました。美とは神々の姿の現れであり、自然の姿そのものです。そして、美的実体とはシンメトリー（左右対称）な美しい肉体のことであり、それが健全な体のことだったのです。この理

想の由ゆをもつことは、神のものと同体となることを意味します。そのためギリシア彫刻では、均整のとれたシメトリ一な形で人間の姿を表現していたのです。

本来、人間の形態は、脳と内臓を除けばほぼ左右対称であり、元々存在する微妙な左右非対称は、單なる個性でしかありません。しかしそが法則とも言えるほど規則的な形態的変化（左右非対称）を見せ始めた場合、明らかにその体には健康上の問題があるのです。一旦、その法則性に気付いてしまうと、そこに特定

左の肩甲骨の位置が高い
からだの危険信号／No.4

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

左の肩甲骨の位置が右よりも上（上体方向）にあるだけでなく、肩のところの筋肉（僧帽筋）も左だけ盛り上がっているので、左の肩が上がりているよう見えますが、肩関節の位置の上下とは関係ありません。また、左側だけひどい肩こりを感じる人もいるようです。

この症状は副神経の影響で起ります。

あるようですが、不安を煽るのがわたしの意図ではありません。予防医学の観点で、形態異常の有無は日々の健康のパロメーターとして活用し、形態異常があるようなら、日常の生活习惯に改善の余地がないかを考えるきっかけにしていただきたいのです。

は画像診断と検査数値にさえ問題がなければ、それだけで健康な体ということになってしまいます。つまり医学上、健康と美とはイコールではないのです。そのため現代医学では美という概念は美容整形外科以外には存在しませんし、健康という概念にシンメトリーな形態という判断基準も存在しないわけです。ですから実際に人体がどんなに規則性をもつた左右非対称性を見せていても、そこにいかに健康上の問題が連動していくとしても、医学上、関連を見出されることはないのです。

この症状は副神経の影響で起こりますので、決して、歯の噛み合わせや椎骨のズレが原因で起こるものではありません。

さて、今までお伝えしてきた形態異常が、自分にも当てはまるという方は大勢いらっしゃるはずです。なにかにはそれで不安になっている方も



■左の肩甲骨の位置が高く
左脇の筋肉も盛り上がり

お詫び申します。お詫び申します。
お詫び申します。お詫び申します。

花山水清ホームページ
<http://www.hnym.jp>

1955年生まれ。鹿児島大学准教授。美術の特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主張とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。05年、「腰痛は「ねじれ」を白ばせよ」と(医書堂出版)を刊行。



病気のリセントボタン

…美術の目で見た医学…

形態異常は感覚にも

左右差をもたらす

花山水清

人の体にはさまざまな感覚がそなつていて、それらは大きく分けて五感と呼ばれています。五感とは視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚のことを指しますが、このうち触覚以外の感覚を医学的には特殊感覚と呼び、これらは直接、神経が脳とつながっています。また、残りの一つ、触覚のことは体性感覚と呼びます。体性とは身体という意味で、体性感覚の場合は直接ではなく、脊髄神経を介して脳とつながっています。

通常のマッサージなどは体性感覚への刺激ですので、脊髄神経を介して脳に伝えられ、それが脳で信号に置き換わり、自律神経を介して内臓の機能を高めます。またそのとき、自律神経は内分泌や免疫にも影響し、それらすべてを合わせたものがマッサージなどの治療効果だとされています。しかし、形態異常が出ている人の体は、通常の体性感覚への刺激がうまく伝達されない状態になっています。さらに、体性感覚への刺激に対する反応にも、背骨を中心にして明らかに左右差が見られるのです。

こういった形態異常に対しても、わたしの施術では、1kg未満の力で特定の神経を狙って指で刺激を加えていきます。通常のマッサージ屋さんなどでは20kgを超すような力が使われていますし、壊れやすい生卵ですら規格1本で押し割ろうとすれば3~5kgの力を必要とします。ですから、1kg未満といえば軽く触れる程度の力なのです。そのような弱い力でも、正常な人の両肩の同じ位置(外側頸骨上神経)を同時に押せば、両肩に同じようにシャープな痛みが現れます。これが、形態異常の出ている人に同じことをしてみると、右側には痛みが出ても左側には痛みが出

形態異常

はからだの危険信号／No.5

■

■ 左側の反応がにぶい

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

忙しくて睡眠時間が思うように取れなかつたり、運動する暇もないようなとき、マッサージ屋さんなどに駆け込む人が増えています。そこで肩をもんでもらうと、左をもっと強くもんでもほしいと感じることがあります。同じ力でもまれているはずなのに、左側の反応がにぶい。実はこ

しますが、生命維持の基本的な条件を無視した生活を続けていれば、病気になつて当然です。最近忙しすぎるとようだと感じたら、そういうときはこそ、生活の優先順位をじっくりと考えてみる必要があるのかも知れません。

われわれ人間も動物である以上、食べること、排泄すること、睡眠を取りることは、生命維持の最も重要な条件です。仕事が忙しくて休んでないといられない、という話をよく耳に



右

■左側の反応がにぶい。

*編集部では本記事に関する電話の取次ぎ等は行いません。花山水清正には下記のホームページからアクセスして下さい。

花山水清ホームページ
<http://www.hnym.jp>

はなやま・すいせい

1956年生まれ、武藏野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。05年「腰痛は「ねじれ」を治せば治まる」(廣済堂出版)を刊行。



病気のリセッタボタン

…美術の日で見た医学…

形態異常への刺激に対する 痛みの逆転現象

花山形態矯正院長
花山 水清

はなやま・すいせい

1955年生まれ。武藏野美術大学油絵科卒業。テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学を中心とする「美術形態学」の確立を目指して研究中。05年「腰痛は『ねじれ』を治せば消える」(廣済堂出版)を刊行。

前回、形態異常の体は、感覚に左

右差があるというお話をしましたが、実は、形態異常には、脊髄に近いほど感覚がにくく、体の末端に近いほど鋭いという特徴も見られます。この場合も、左半身の感覚は特ににくくなっています。

この形態異常を改善するには、特定の神経をねらってごく弱い1kg未満の力で刺激を加えていきます。初めのうち、患者さんはただ触られれている程度にしか感覚を感じませんが、そのまま同じ力で刺激し続けると、突然激しい痛みを感じるようになります。

そして、一日痛みに変化し始めると、今度は体中のどこに軽く触れても激痛を感じるようになります。しかも、当初の感覚とは逆に、脊髄に近い部分や体の左側のほうがより強く痛みを感じます。これは痛みの逆転現象ともいえるもので、形態異常の特徴

ます。神経に沿って、痛みが末端から脊髄に向かってかけのぼっていくような感覚です。本来、痛みというのは種類にも感じ方にも個人差があるのですが、これは初めて感じる種類の痛みだとみなさんおっしゃいます。

一度痛みに変化し始めると、一度は体中のどこに軽く触れても激痛を感じるようになります。しかも、当初の感覚とは逆に、脊髄に近い部分や体の左側のほうがより強く痛みを感じます。これは痛みの逆転現象ともいえるもので、形態異常の特徴

的な反応なのです。

一方、刺激を加えているわたしの指先でも、この変化の様子ははつきりとわかります。それまで固く張ったような感触だった体の表面が、急にフワッと柔らかくなり、体中のリバが浮き上がりてくるのです。こ

ういった一連の変化を、刺激に対して「反応が出た」状態だとわたしは表現しています。

「反応が出た」状態の患者さんは、わたしが渾身の力を押していると感じます。たとえばアトピー性皮膚炎の場合、反応が出た部分の炎症が消え、反応が出ない部分の炎症は残ります。たとえばアトピー性皮膚炎の場合、反応が出た部分の炎症が消え、反応が出ない部分の炎症は残るという現象が見られます。このことからも、刺激に対する反応の出方と疾患の因果関係は明らかだといえます。

しかし、一日反応が出ても一瞬で元に戻ってしまうこともありますし、数日も経てば、その確率もかなり上りますので、まだ決定的な療法だけではありません。それでも、すべての形態異常を完全に除去できるリセッタボタンのようなポイントが、体のどこにあるのではないか、そう考えて今も探し続けているのです。



形態異常

はからだの危険信号！
No.6 痛んでいいのに……
全身の筋肉が固く疲れやすい

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

筋肉というのは、力を入れると固くなり、力を抜くと柔らかくなるものです。ところが形態異常の体の人、全身の筋肉に微妙に力が入ったままの状態が続きます。そのため、眠っているときもリラックスできないの

で疲れが取れません。朝起きたときから体がだるく、常に疲れを感じている状態になります。

このような症状で病院に行つても、ストレスのせいにされたり、うつ病だと診断されたりしてしまいます。

確かに現代はストレス社会だといわれていますが、実際には、人類の歴史上、飢餓も戦争もない今の日本ほど、ストレスの少ない環境はありません。形態異常の原因にしても、ストレスとは全く関係ありませんし、なにかとすると安易にストレスに原因を求めるようでは、結局なんの解決にもならないとわたしは思います。



病気のリセットボタン

…美術の目で見た医学…

形態異常の存在が科学的に検証されていました！

花山形態矯正院長

花山水清

はなやま・すいせい

1956年生まれ、武藏野美術大学油絵科卒業。
テレビの特殊美術制作会社を経営した後、治療家への道を目指す。その後、科学的実証を主眼とした療法「形態矯正」を確立。現在、美術の観点から医学をとらえる「美術形態学」の確立を目指して研究中。05年「腰痛は「ねじれ」を治せば消える」(廣済堂出版)を刊行。

さて、形態異常の諸現象を発見はしたもの、この現象は医学的にはどのように捉えればよいのでしょうか。

医師の方たちに形態異常の概要を説明し、実際に施術を体感してもらうと、感覺神經やリンパが突然変化することに非常に驚かれます。しかし、従来の医療ではどのカテゴリーにも属さない現象であるため、ただただ不思議だといわれるだけで、どの医師もこの現象を医学的に説明できません。また、わたしの知る限りにおいては、日本の医学書には形態異常の諸現象について触れたものは見あ

たりません。

しかし唯、解剖学者 三木成夫(1935-)
(築地書館発行)の著書「人間失命の誕生」
(築地書館発行)のなかに、形態異常現象の記述を発見しました。

三木成夫は、東大の解剖学教室では養老孟司の大先輩に当たりますが、没後、評価の高まっている研究者です。

彼の生前の論文や講演録、エッセイなどをまとめたこの本のなかに、勤務先の大学の保健センターを訪れる学生で、病院の検査では原因不明とされる不定愁訴をもつ者の多くに、胸椎7、8、9番あたりの背骨の左側の筋肉部分にしこりがあることを確認した、という記述があります。

また、このしこりは左側に多く見られ、同時に上腹部にもしこりがあつて、その部分は妙に張っており、押すと防御反射が起てる。そして、彼らは胃腸の具合が悪いという自覚症状をもつてゐる、と書かれています。

これらのことから著者は、この現象の原因を、胃体部から來た刺激が中枢を介して、体壁系の交感神経を通じて背部と腹部の筋肉へ伝わっていく、つまり、胃体部の筋肉疲労が特定の体壁筋の疲労となつて、胸椎7、8、

形態異常

はからだの危険信号！

No.7 前側の左肋骨下部が盛り上がりっている

形態異常とはさまざまな病気の患者に共通したからだの異常現象。この現象が現れたら未病の段階でも危険信号です。

仰向けに寝ると、左の肋骨下部が右に比べて盛り上がつて見えることがあります。

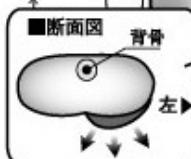
うつぶせになると、その部分がぶつかる感じがあるので、自分で気がつく人もいます。

これは、ケガなどで右側の肋骨が凹んでしまっているのではありません。異常なのは、盛り上がっている左側のほうで、ある日突然、このような形になつてしまふのが形態異常なのです。

肋骨の前側は軟骨でできていますので、盛り上がりつている部分を力で無理に矯正しようすれば、痛みが出たり、骨折したりする危険性もあります。



左の肋骨下部



※編集部では本記事に関する電話の取次ぎ等は行いません。花山形態矯正には下記のホームページからアクセスして下さい。